

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要		事業開始年度		平成17年度～		根拠法令・規程等		医療法、備前市国民健康保険病院条例	
総合計画	大項目	基本目標	02	健康でやさしさあふれるまちづくり		問合先	担当課(室)	市立日生病院	
	中項目	基本施策	02	健やかで生き生きしたまちづくり			職・氏名	事務次長 岡正千丈	
	小項目	施策	07	病院事業			電話	0869-72-1111	
事務事業名		08		日生病院診療事業					

事業の実施		対象(誰・何に対して)		病気の予防及び治療を必要とする人	
		目的(何のために)		安心・安全で良質な医療の提供	
		行政活動(どのような方法で)		医療スタッフの充足とスキルアップを図りながら、患者が安心して安全な医療が受けられるよう環境を整える。	
		事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)		安心して安全な医療が受けられる環境整備と良質で適正な医療を提供し患者数の増加を図る。	

事業の実績						
活動	実施項目		単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	入院患者数	人		27,618	30,307	29,113
	外来患者数	人		55,139	60,796	60,352
実績	事業費		千円	593,204	613,684	624,289
	必要人員	人件費		78.65人	456,524	83.58人
実績	事業費		千円	1,051,944	1,070,208	1,111,626
	国	支出金				
	受	益者負担金				
	一	般会計繰入金	千円	84,307	22,002	78,541
	市	収	益的収入	千円	967,637	1,048,206
	一	般財源		0	0	1
	受	益者負担比率	%			

結果指標名		単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
結果指標①	入院患者延数	人	27,618	30,307	29,113
	対前年比	%	109.7%	96.1%	
	活動コスト	円	645,183,178	689,199,267	662,785,524
	単位当たりコスト	円	23,361	22,741	22,766
結果指標②	外来患者延数	人	55,139	60,796	60,352
	対前年比	%	110.3%	99.3%	
	活動コスト	円	352,764,325	332,630,978	366,889,818
	単位当たりコスト	円	6,398	5,471	6,079

事業の成果						
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値	
		目標値(A)	90.0	90.0	90.0	90%以上
		実績値(B)	82.2	90.0	86.7	到達目標年度
達成率(B/A)		91.4%	100.0%	96.3%	毎年度	

成果指標設定の考え方・式や説明
 安定した病院経営を維持するためには、収益の確保と維持が重要である。このため、経営の効率化に係る経営指標(収支改善、経費削減、収入確保、経営の安定性等)の中から、収入確保に係るものとして病床利用率を成果指標として選択し、目標数値を設定。
 ◆病床利用率(%) = 入院患者延数 ÷ 診療日数(365日又は366日) ÷ ベッド数(92床)

事業の目的、対象、内容を考えてから目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		市の実施するよう法令で義務づけられている		妥当性評価<A~E>		A			
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/>	法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたさず	判定理由・課題認識					
		<input type="checkbox"/>	現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない	●医師確保が困難な状況の中で、循環器内科及び婦人科を増設。また、市民からの要望に対し各種委員会等実情調査とその対応について協議。結果を院内掲示等により回答し、対応可能なものは早期に改善するなど地域住民ニーズに応えた。◆医療圏全体では医師数、病床数とも不足はないとされているが、基幹病院はすべて岡山市内に集中している。また、周辺部では医師や看護師が不足し、医療機能は低下している感がある。このため、医療機関相互の機能分担と連携が必要。					
<input type="checkbox"/>	事業の内容が一部の受益者に偏っている								
<input type="checkbox"/>	対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている								
<input checked="" type="checkbox"/>	現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である								
市民ニーズ	市民ニーズ	<input type="checkbox"/>	事業開始当初の目的から変化してきている	効率性評価<A~E>				C	
		<input type="checkbox"/>	事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	判定理由・課題認識					
効率性の評価	コスト	<input checked="" type="checkbox"/>	厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	●患者延数の減少に対し、入院・外来とも患者1人当たりのコストは増加となった。その要因としては材料費のうち薬品費16,100千円の増が考えられるが、薬品費対医療収益比率23.4%(0.5%増)は全国平均と比較し高い数値となっている。◆今後、現状分析を行いながらより一層のコスト削減に努める必要がある。					
		<input type="checkbox"/>	類似した事業がある	有効性評価<A~E>				B	
目的達成度	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/>	市民・団体等から要望・要請が強い	判定理由・課題認識					
		<input type="checkbox"/>	説明	●20年度は僅かに目標値を下回ったこととなったが、その原因は年度末までには解消することができた。引き続き、収益増につながる新たな事業の検討と現状分析・見直しを推進することにより、中長期的に安定した経営基盤を構築する。					
有効性の評価	目的達成度	<input type="checkbox"/>	単位当たりコストは前年度と比較して改善している	成果指標の設定は適切である					
		<input checked="" type="checkbox"/>	実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある	成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである					
市民参画度	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/>	事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある	成果指標達成率は前年度と比較して向上している					
		<input type="checkbox"/>	コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい	成果指標達成率は80%未満となっている					
市民参画度	市民参画度	<input type="checkbox"/>	受益者負担率は適正である	現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない					
		<input type="checkbox"/>	受益者負担率を見直す余地がある	事業について積極的にHPや広報等で情報提供している					
市民参画度	市民参画度	<input type="checkbox"/>	サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある					
		<input checked="" type="checkbox"/>	現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している					
市民参画度	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/>	最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている					
		<input type="checkbox"/>	説明						

平成21年度状況		目標値		30222人		結果指標量②		60858人		成果指標量		90.0%	
状況	説明	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了					
			○										

総合評価		評価区分<A~E>		B	
結果指標	説明	成果指標は僅かに目標を下回ったが、経常収支比率103.5%、純利益37,390千円を確保することができた。しかしながら、経営の安定化を推進するためには引き続き事業運営の見直しと検討及び地域住民の医療ニーズへの対応を考慮しながら経営健全化に努めていく必要がある。			

平成22年度以降の方向性・内容		方向性		拡充		現状継続		見直し		縮小		整理統合		休止		廃止・完了	
改善がある場合	説明	公立病院改革プランの経営の効率化に係る計画に基づき、経費削減・抑制対策や収入増加・確保対策等取り組み、経営の安定化を推進する。		改善内容		改善時期		改善により期待される効果									
		効率性	院内研修の実施と各種研修会への参加を拡充させ、職員の質と能力の向上を図る。	毎年	患者1人当たりのコスト削減												
有効性	院内研修の実施と各種研修会への参加を拡充させ、職員の質と能力の向上を図る。	毎年	安心・安全な医療の提供による患者数の増加														